神明神社棟札

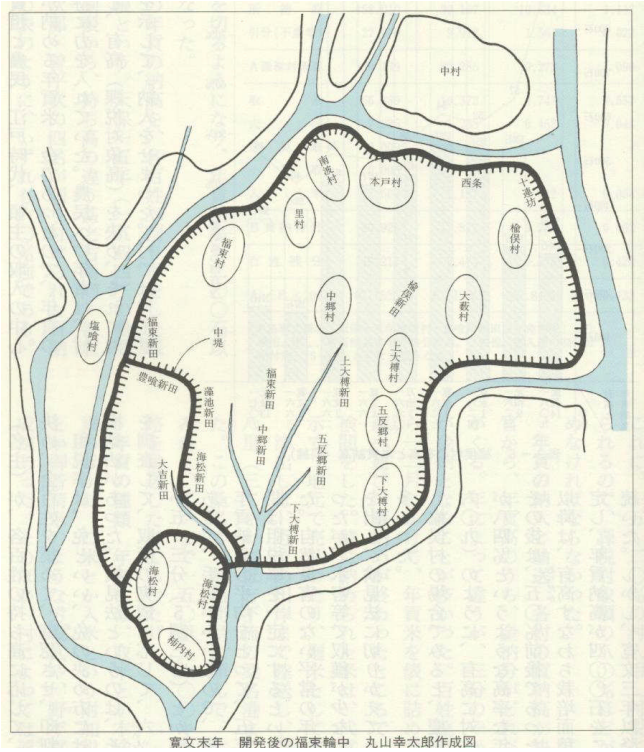
○　**所在地**　　大吉新田　神明神社
○　**指定年月日**　　町指定　古文書　昭和３２年９月３日
○　**時　代**　　江戸時代　寛文１０年（１６７０年）

寛文３年（１６６３年）、名古屋の町医者の山内承玄が柿内・海松村の北の草地を買い、新田開発を行った。同５年に完成し、検地を受け新田高は５９３石余（４８町歩）となった。

この工事は、開発者山内家が堤防と排水路・圦樋（いりひ）を築き、囲いこまれた土地を入作者が開墾するという形で進められた。

この新田開発後、寛文１０年（１６７０年）に開墾地に多く自生していた柳の木を神木として、開拓者の山内承玄他１２名が願主となり、この地に神明神社を創建し、村の繁栄を祈願した。棟札には、願主山内承玄の他、小池、神田、三輪、加藤、大橋、鈴木、中野、里宮、菱田、掘田、中島、山本の姓名が見える。棟札は開発を裏付ける具体的資料である。

神明神社（大吉新田）の社殿に残る創建時の棟札に、この地の開拓者及び入作者１２名（氏名入り）が願主として記されており、開発をうらづける具体的史料として貴重である。



寛文末年　開発後の福東輪中　丸山幸太郎作成図

神明神社棟札

寛文末年の福東輪中（開発後）